

日本沿岸で採集された底生性クシクラゲ

戸篠 祥 (黒潮生物研究所)

有櫛動物門 (クシクラゲ) は生活様式により、浮遊性と底生性に分けられる。底生性クシクラゲは底生生活に特化したグループで、扁平な体を持ち、他生物の体表や岩や海藻などの固着基質上で付着生活する。底生性クシクラゲの大多数を占めるクシヒラムシ目は 5 科 41 種が知られており、そのうち最大の科であるクラゲムシ科 *Coeloplanidae* は、クラゲムシ属 *Coeloplana* と *Vallicula* 属の 2 属 32 種からなる。クラゲムシ属は世界中の温帯や亜熱帯、熱帯の浅海域に生息し、日本では 8 種が確認されている。本研究では、日本各地の沿岸で採集したクラゲムシ属の標本について形態観察、DNA 分析による分類学的精査を行ったところ、日本初記録種であることが判明したので、その詳細を報告する。

2021 年から 2023 年にかけて高知県、鹿児島県、沖縄県にて潜水調査によりイシサンゴ類、ソフトコーラル、海藻など付着していたクラゲムシ属の一種を採集した。採集したクラゲムシは塩化マグネシウム水溶液を滴下して麻酔したのち、写真撮影および形態観察を行った。その後、3%ホルマリン海水で固定して形態観察用の標本とした。また、クラゲムシ属の全体または体の一部を 99.5%エタノールで保存し、DNA 分析用とした。形態観察と計数計測の手法は Komai (1922) および Alamaru et al. (2015) に従い、生時および固定後の標本を精査した。DNA 分析はミトコンドリア COI 領域について解析を行い、得られた塩基配列を基に作成した系統樹から近縁種との比較を行った。

本研究による形態観察および分子系統解析の結果により、沖縄産標本は *Coeloplana punctata* であることが明らかとなった。本標本の体色や模様、触手鞘などの特徴はマダガスカル産標本および紅海アカバ湾産標本のものと同様と一致した。本種はマダガスカルで得られた標本を基に記載され、紅海アカバ湾でも報告がある。本研究により、*C. punctata* は日本初記録種となった。高知産標本については沖縄産標本と酷似するものの、斑点の大きさや分布密度に差異がみられたため、*C. punctata* とは異なる未記載種である可能性が高いと考えられる。その他の標本については、既報告種とは異なる色彩や模様をもつ個体も含まれており、現在、形態観察と分子系統解析を進めている。